

これほど短期間の間に、立て続けに almost の用法が問われる、ということの意味を真剣に考えてみなくてはならないと思います。間違いなくそこには、「大学入試センター」の、現場に対するメッセージが込められていると私は見えています。「基本語は実際に使えるレベルにまで習熟しておきなさいよ」ということです。

『ライトハウス英和辞典』には「**語法** all, every, always など100%を表す形容詞や副詞の前に置いて使うことが多く、ある状態に非常に近いが到達していないということを含意する.」[「動詞・形容詞の前で」もう少しで…するところ」という正確な定義が示されています。

●ますます「語彙力」が大事に!!

「共通テスト」の「リーディング」では、①文章の概要や要点を把握する力、②文章に書かれている情報を事実と意見に整理する力、③複数の文章や図表に出てくる情報を比較して共通点や相違点を把握する力、④文章の論理展開を把握したり、文章を要約したりする力、が問われます。全て読解問題となり、従来の「センター試験」よりも、1,000語以上も分量が増えることから、相当のスピードで英文を読むことが求められます。そのために最も必要なのは、圧倒的な「語彙力」ということになります。

今まで以上に、「語彙力」の指導が現場では求められるのです。単なる丸暗記ではなく、英文の中で単語を理解していくことはもちろんですが、語彙の学習に工夫が求められます。ここで大きな力を発揮するのが、『ライトハウス英和辞典』の「単語の記憶」欄です。uniform (制服) という単語を学習した際に、uni- と form から芋づる式に数多くの単語を記憶することができます。p.8にはこのコラムの一覧表が出ていますので、時間を見つけてこれを拾い読みするだけでも力がつきますよ。

form /fɔ:m | fɔ:m/
— 名 (~s /-z/)

単語の記憶	FORM/形
form 形; 形作る	→ 公式の
formal (型にはまった)	→ 公式
formula (小さな型)	→ 制服
uniform (1つの形)	→ 改革する
reform (再び形を作る)	→ 一変させる
transform (形を他へ移す)	→ 通知する
inform (心の中に形を作る)	→ (規則)に従う
conform (...に合わせて形を作る)	

form (p.538)

u-nite /ju:nait/ [発音] (u-nites /-narts/; u-nit-ed /-tid/, u-nit-ing /-tɪŋ/)

単語の記憶	UNI/1つ=one
unite (1つにする)	→ 結合する
unique (1つの、唯一の)	→ 独特の
unit (1つのもの)	→ (構成)単位
unity (1つであること)	→ 単一性
unify (1つにする)	→ 統一する
university (1つにまとまった社会)	→ 総合大学
universe (1つにまとまったもの)	→ 宇宙
unanimous (1つの心の)	→ 満場一致の

unite (p.1544)

第2回の「試行調査」の「リーディング」第6問Aで、With the rapid growth of airline travel in Asia, the shortage of airline pilots is becoming an issue of serious concern. (アジアでの空路の旅の急増で、パイロットの不足が深刻に懸念される問題となっている) という英文が出ました。issue は「出す」「発行する」「発行物」「問題点」などの意味がある単語ですが、『ライトハウス英和辞典』でこの単語を引くと、始めに「語義の展開」として、これらの意味のつながりが分かるように図示されています。多義語はそれぞれの語義のつながりを意識するようにすると、記憶に残りやすく、応用力にもつながります。

is-sue /ɪʃu: | ɪʃu:, ɪʃju:/

語義の展開
ラテン語で「外へ出る」の意。
「出る」① → (公に出す) → 「出す」② → 「発行(する)」③、④、⑤ → 「発行物」⑥
(流出する) → 「流出」 → (議論の流れから出たこと) → 「問題点」⑦

— 名 (~s /-z/) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 問題(点), 論点, 争点 (⇒ problem (問題)); 討論: a political issue 政治の問題 / the energy [environmental] issue エネルギー[環境]問題 / The failure of the experiment has raised [brought up] a new issue. 実験の失敗は新たな問題点を提起した。

issue (p.739)

「リスニング」においても、「知らない単語は聞こえない」のですから、「語彙力」を磨く必要があるでしょう。論理的な読みを支えてくれるのが「つなぎ語」ですが、分かりやすい用例と共に詳しく説明されていますので、じっくりと読んでみたいものです。「イギリス英語」が、「リスニング」だけでなく「リーディング」でも問題で使用されています。語彙、綴り、発音、文法、などにその違いが観察できますが、全て『ライトハウス英和辞典』では丁寧に解説されています。文化面の相違(例: 建物の階数の呼び方の英米差など)も、分かりやすい注記が見られます。

floor /flɔ: | flɔ:/ [発音] (同音(英) flow)

— 名 (~s /-z/)

② ③ (建物の) 階, フロア (階 fl.): I did some shopping on the second floor. 私は2階(英) 3階でちょっと買い物をした / live on the fifth floor of the building ビルの5階(英) 6階に住む。

語法 挿絵のように(米)では1階から上へ the first floor (1階), the second floor (2階), the third floor (3階) のように数え、(英)では the ground floor (1階), the first floor (2階), the second floor (3階) のように数える。

floor (p.522)

ライトハウス英和辞典 第6版 の特色

さらに充実した「単語の記憶」

共通の語根を持つ単語を一箇所に集めてコラムにした「単語の記憶」は、単語力増強のためのツールとして長年ご好評をいただいています。『ライトハウス英和辞典』では1コラムに掲載する単語の数を10語以内に留めていますが、「単語の記憶」を活用することでさらに単語の世界を広げることのできる一例をここでご紹介したいと思います。

vis-it /vɪzɪt/

— 動 (vis-its /-zɪts/; -it-ed /-tɪd/; -it-ing /-tɪŋ/) ②

単語の記憶	VIS/見る=see
visit (見に行く)	→ 会いに行く; 訪問
visible 目に見える	
vision (見ること)	→ 視力
visual 視覚による	
visa (見られた→検査済み)	→ ビザ, 査証
revise (再び見る, 見直す)	→ 改訂する
supervise (上から見る)	→ 監督する
advise (...を見る)	→ 意見を持つ → 忠告する

visit (p.1574)

「見る」という意味の語根を持つ単語にはこれら以外にも、例えば以下のようなものがあります。

- evidence** (はっきり見えるもの) → 証拠
- improvise** (先を見ていない) → 即席で作る
- provide** (先を見る) → 供給する; 用意する
- provision** (先を見ること) → 供給; 用意; 食糧
- video** ((私は)見る) → ビデオ
- visage** (見える部分) → 容貌

このように、単語の背後にある「見る」という共通の意味を念頭に置くことで、複数の単語を効率的に覚えることができ、また記憶にも残りやすくなります。

新しい特色の「ポライトネス」とは?

I wonder if [whether]... (1) ⑤ (丁寧) ...していただけるでしょうか(依頼); ...してもよろしいでしょうか(許可を求める): We couldn't catch a taxi. I was just wondering [I wondered] if you could give us a lift. タクシーが拾えません。乗せていていただけませんか(⇒ be¹ A I (1) ⑤)。

④ 依頼や許可を求める際に使う間接的で丁寧な表現。wonder を進行形や過去形にすることでさらに間接的になり、過去進行形の I was wondering if... が最も控えめな言い方。相手が断る可能性が高いような場合(相手に大きな負担・迷惑がかりそうな事柄の場合や、相手が親しくない人である場合など)に用いることが多い。「相手が応じるのは当然」という態度を避けた、押しつけを弱めた表現(依頼の表現については ⇒ could B 1 (4); 許可を求める表現については ⇒ can¹ 2 (2)): "I was just wondering if you could possibly change the date of our appointment?" "Okay. When would be convenient for you?" 「できれば約束の日に変更していただけないでしょうか」「いいですよ。いつか都合よろしいですか」「I have to give a speech in class next week, and I was wondering if you could help me with it. 来週授業でスピーチをしなければならなくて、それを手伝ってもらえたらと思ったんだけど」「I was wondering if [whether] I could take a day off next week.」「Again? You just took a day off last week.」「来週お休みを1日いただけないかと思っていいのですが」「また? 君は先週休暇を取ったばかりじゃないか」

例① wonder (p.1639)

親しい友達に依頼する例。比較的負担の重い頼み(相手が引き受けてくれるかどうか分からない)なので、遠慮がちに尋ねている。丁寧な言い方をするのは目上に対してのみとは限らないという点に注目!

目上の相手に対し許可を求める例。相手に迷惑がかかるかもしれないことなので、間接的に尋ねている。

友達を積極的に誘う例。相手にとって望ましい内容なので強い言い方をしている。ひとつ前の相手の発言からも相手が誘いに応じる可能性が高いことがわかる。

例② should (p.1291)

(4) [You should...として; 勧め・誘いを表わす] ぜひ...してください(⇒ must¹ 4): It's a really good movie. You should see it. とてもいい映画なので、ぜひ見るといいですよ。

④ 相手にとって望ましいこと・楽しいことを積極的に勧めたり、誘うときに使う表現。相手が断らないことが予測できる場合の強い言い方: You should try this cake. It's really delicious! このケーキ、ぜひ食べてみてください。すごくおいしいですよ! / "I haven't done much shopping lately." "Oh, Meg and I are going to the mall tomorrow. You should join us if you're not doing anything." "最近あんまり買い物してないなあ。" "そうだ、明日メグとショッピングモールに行くんだけど、もし暇だったら一緒に行こうよ"

ポライトネスとは、円満な社会関係を維持・構築し、円滑なコミュニケーションを実現するための対人的配慮のことです。このコラムでは、相手との関係や場面に応じた「適切な」英語の使い方が学べます。「文法的に正しい」から一歩進んだ、「丁寧で好印象な」コミュニケーションのマナーを身につけましょう。上下関係や親しさの度合いのほか、意図する行為がもたらす負担や利益の程度、義務の有無、緊急度、相手が応じる可能性の高さなど様々な要素を考慮し、詳しく解説しています。